

「探究」と「進路選択」の接続に注力 生徒の探究活動を踏まえて進路をサポート

青翔開智中学校・高等学校

PROFILE 創立 2014 年 / 普通科 / 生徒数 272 人 (男子 105 人、女子 167 人) / 進路状況 (2022 年 3 月実績) 卒業生 46 人中、大学 40 人 (海外大 3 人含む)、その他 6 人



青翔開智中学校・高等学校
進路支援主任
森川真吾氏



青翔開智中学校・高等学校
探究主任
田村幹樹氏

探究したことがその後の人生につながるように

青翔開智中学校・高等学校は、鳥取市内に2014年に開校した私立の中高一貫校だ。建学の精神に「探究」「共成(共に成長する)」「飛躍」を掲げており、図1のように6年間の「探究基礎」の授業を展開。また、課題発見や課題解決に必要な資質・能力を「探究スキル」と位置づけ、他教科でもそのスキルを伸ばすことを重視して、授業の開発・実践を行っている。

実は開校当時、「探究基礎」の授業は、高校2年生までの設計だった。高校3年生は受験など次の進路に向かう準備期間という想定からだ。しかし、それでは「探究」と「進路」を分けているようでもある。そこで全6年間のカリキュラムに再構築。探究を踏まえた進路支援にもより本腰を入れていく。高校2年次の個人探究では、生徒一人ひとりに担当教員がつき、1年かけて論文完成まで伴走するのだが、そうして生徒への理解を深めた教員が基本はそのまま進路決定までサポートすることにしたのだ(生徒の志望学部・学科によっては教員間で担当を引き継ぐこともある)。

さらに同校は、大学等の合格実績(学部名等含む)を、各生徒の探究論文のテーマとセットで公表している。そこに込めた思いを進路支援主任の森川真吾氏は次のように語る。

「探究活動に本気であることを知ってほしい、という思いが一つにはあります。また、本校としては『どの大学に行ったか』をアピールするつもりはなく、それよりも『各生徒がこの学校で何を学び、それを卒業後の人生にどう接続しようとしているか』を、世間の皆さんに見ていただきたいと考えているのです。」

探究活動による生徒の変容を全教員で共有

「探究」と「進路選択」の接続を支えるのが、個々の活動の進展をこまやかに把握していくシステムだ。個人探究では教員1人につき3~5人の生徒を担当するのだが、それぞれの生徒と少なくとも週1回はディスカッションを行う。その際に教員側で見取ったことをクラウド上に記録できるフォーマットがあり、蓄積したデータはほかの教員とも共有。また、生徒のほうも月1回、アンケートに答えるようにして活動の進捗や困りごとをオンライン上で記録。生徒の了解の下、情報はオープンにされていて、どの教員でも確認できるといふ。こうした仕組みで、生徒がどんなテーマを追いかけ、どう成長したかを教員間で共有し、その探究的な学びを進路実現にも活かせるよう支援していくのだ。

なお、生徒の月1回の報告では、探究活動における評価の



探究基礎の授業で思考や議論のための手法も学ぶ



「校舎全体が図書館」を謳い、校内各所に本棚を設置



外部の人を招いた全校規模の探究の発表も毎年開催

観点をもとめたルーブリックも活用している。では、そのルーブリックは何を土台に作成されたのか。建学の精神である「探究」「共成」「飛躍」はどんな資質を伸ばせば実現するのか、その点を教員間で議論してまとめた図2の表だ。探究主任の田村幹樹氏によると、「ずっと使い続ける表というよりは、教員同士で『この力でのいいか』と話し合う材料にもして、適宜内容を変えていくもの」という位置づけだという。

自分の関心や強みを生かせる進学先を志向

その田村氏は、「今では生徒にとっても、探究が真ん中にあるな」と感じているようだ。

「授業だけでなく、それ以外でも、生徒が自分でやりたいことを見つけて、学外のプロジェクトに参加したり、プロジェクトを立ち上げたり、人を集めたりと、自発的な探究が学校の内外にあふれるようになったのです。」

探究と進路選択が結びついた生徒も多い。探究論文で「カラフルらっきょうの販売方法」を模索した生徒が、食マネジ

メント学部に進み、「微生物燃料電池の発電効率」を研究した生徒が、生物資源科学部に進む、といったように。なかには一見つながらない生徒もいるが、その場合も「活動のなかで育んだ『探究スキル』が生きている」と森川氏は捉えている。

「看護師を目指していた生徒が、鳥取出身で大好きな漫画家をどうしても探究したい、とあってそのテーマに没頭したこともあります。その生徒は志望大学の看護学科に合格し、今は専門分野の探究をがんばっています。」

6年間の探究活動で、自分の核となるテーマや強みを育んだ生徒が多いので、進路選択では、そのテーマを掘り下げられる大学や、総合型選抜などで強みを評価してくれる大学に挑戦する生徒が増えている。こうした探究を一層充実させられるように、田村氏は「高校と大学の単位互換など、高大接続でより特色のある教育を実現できるとうれいす」という夢も思い描いている。

(文/松井大助)

図1 6年間の探究活動

中学1年 探究基礎Ⅰ プランニング講座 「鳥取市に魅力的な〇〇を創ろう」 ※企画・提案の楽しさにふれる
中学2年 探究基礎Ⅱ 課題解決型職場体験 「鳥取の経営者へ改善案をプレゼン」 ※デザイン思考の活用
中学3年 探究基礎Ⅲ 社会課題解決ゼミ 「世界の課題に目を向けよう」 ※SDGsを切り口に
高校1年 探究基礎Ⅳ データ分析+AI活用ゼミ 「人口減少を人工知能で解決しよう」 ※テクノロジーを使った課題解決
高校2年 探究基礎Ⅴ 探究基礎修了論文 ※自分の興味・関心と社会課題を融合 個人論文の執筆から発表まで
高校3年 探究基礎Ⅵ 探究基礎から進路デザインへ ※個人論文の追加調査や加筆修正 合わせて表現したい進路の模索

学校資料をもとに編集部で作成。中学1~2年を「クリエイティブフェーズ」、中学3年~高校1年を「アカデミックフェーズ」、高校2~3年を「パーソナルフェーズ」と置いている

図2 青翔開智の「育てたい資質」と「評価項目」

階層1	階層2	階層3	タグ
探究	課題設定	疑問・課題を見出すことができる	1
		課題解決に必要な仮説を立てることができる	2
	情報リテラシー	課題解決に必要な調査の設計をすることができる	3
		仮説の検証に必要な適切な情報を集めることができる	4
		思考ツールを活用して集めた情報を分析することができる	5
	クリティカルシンキング	仮説を検証するために収集した情報を適切に管理することができる	6
		情報の信ぴょう性を主体的に判断することができる	7
	ロジカルシンキング	多角的・客観的な視点を持ち自らの判断を内省することができる	8
		ものごとを筋道立てて考えることができる	9
	データサイエンス	帰納・演繹を使って仮説検証をすることができる	10
		データを統計的に処理することができる	11
	表現	統計的に処理されたデータを考察することができる	12
		資料作成等に必要なアプリケーションを活用することができる	13
デバイスやアプリをコントロールするためにプログラミングを活用することができる		14	
思考を視覚的に表現することができる		15	
思考を的確な文章で表現することができる		16	
共成	知識・概念	成果物を使って共感を得る発表をすることができる	17
		領域分野に関する知識・概念が形成されている	18
	セルフコントロール	公共の精神や社会規範の意識を持っている	19
		状況を判断してとるべき行動を選択しようとする	20
	まきこみ力	チームでの取り組みを主導しリーダーシップを発揮しようとする	21
		他者に共感しそのことを表現しようとする	22
	帰属意識	求心力(因らずとも人がよってくる・信頼されている)がある	23
		成果を他者へ還元しようとする	24
		社会(チーム)を構成している一員であるという意識をもっている	25
	ポータレス感覚	国際感覚が身についている	26
他者を受容し敬意を持って接しようとする		27	
広い視野で物事をみようとする		28	
飛躍	バイタリティ	好き・やりたいという気持ちを持っている	29
		意外性を大切にし他者の期待・想像を超える結果を出そうとする	30
	ビジョン	既存のものを組み合わせて新しいものを創り出そうとする	31
		答えのないものに対し自身なりの答えを見つけようとする	32
		継続力・持続力をもっている	33
アントレプレナーシップ	ものごとの判断や行動に自分がどうありたいかをもっている	34	
	学ぶことへの意味・意義をもっている	35	
		自身のことを客観的に理解しようとする	36
		失敗を恐れず何事にもチャレンジしようとする	37
		どんな環境や状況においても心の余裕を持ち楽しさを見出そうとする	37